

2015年5月24日ペンテコステ主日礼拝

説教「聖霊の満たし」

使徒の働き 1章 3-8節

【ペンテコステ】

今日はペンテコステ。50番目の日という意味の言葉。イースターから数えて50日目の日曜日が今日。いったい主イエスは、復活なさってからその間、何をなさっていたのでしょうか。「イエスは苦しみを受けた後、四十日の間、彼らに現れて、神の国のことを語り、数多くの確かな証拠をもって、ご自分が生きていることを使徒たちに示された」（3）とあります。主イエスというお方は、ほんとうに私たちの主。復活なさってから40日間を弟子たちのために、用いられました。神の国のことを語っていただきました。「もう神の国が始まっている。神の国とは神の恵みの支配。そんな恵みがすでに始まっている。だから、さあ、その中で、生きなさい。私のように生きなさい。私のように、思い切り愛しなさい」と忍耐強く語ってくださったのです。

【ひとりではなく】

ところが主イエスは去って行かれます。「こう言ってから、イエスは彼らが見ている間に上げられ、雲に包まれて、見えなくなられた」（9）とある通りです。確かに「聖霊があなたがたの上に臨まれる」（8）という約束はあるのですが、やはり弟子たちは心細く思ったことでしょう。

この約束は最後の晩餐のときにすでに与えられていました。「しかし、わたしは真実を言います。わたしが去って行くことは、あなたがたにとって益なのです。それは、もしわたしが去って行かなければ、助け主があなたがたのところに来ないからです。しかし、もし行けば、わたしは助け主をあなたがたのところ遣わします」（ヨハネの福音書 16:7）がそれです。主イエスは、聖霊が来てくださるのだから、自分が去るほうがよいのだ、とそこまでおっしゃいました。そして私たちを聖霊におゆだねくださったのです。聖霊とは、それほどのお方。これ以上ない助け主、同伴者です。私たちに、主イエスの生き方を教え、主イエスのように歩ませてくださるお方。主イエスは、私たちを最高の助け主にゆだねてくださったのでした。

【愛する力】

「しかし、聖霊があなたがたの上に臨まれるとき、あなたがたは力を受けます」（8）とあります。この力とは、どのような力でしょうか。私たちが力と聞いて、すぐに思い浮かべるのは、病を癒したり、悪霊を追い出したりする力。あるいは、異言を語ったりする力。けれども、主イエスの生き方を貫いたのは、愛です。ご自分を与える愛。だから、聖霊が臨むときに私たちに与えられる力は、なによりも、愛する力なのです。

思えば、神さまはいつもご自分の力を愛する

ためにお用いになります。父・子・御霊の三位一体の神。父は、私たちを作られ、御子をおつかわしになりました。御子は私たちのために、十字架にかかり、よみがえってくださいました。これは、みな神さまが、ご自分の力を用いて、愛するためにしてくださったことです。そして、聖霊なる神が、私たちのうちに来てくださって住んでくださっています。そうして愛する力を内側から与えてくださっているのです。

【愛の冒険】

私たちのうちに住んでくださる神さまは冒険の神さま。そして、神さまはご自分が冒険をなさるだけにとどまりません。「地の果てにまで、わたしの証人となります」（8）とあるように、私たちは証人として遣わされるという大冒険へと招かれています。

それは、海外宣教師のような伝道者になることだけではありあません。もっと身近なところにも冒険はあります。介護を必要とする家族や障がいをもった人々に仕えることも愛の冒険。自分と意見のちがう人々と分かり合おうとすることも愛の冒険です。

そのように生きるときに、私たちは自分の足りなさを思い知らされます。けれども、私たちには聖霊という助け主がおられます。私たちは、ひとりで愛に成長していくことはできないけれども、聖霊の力によって、仲間たちと共に生き、その中で成長しているのです。